

地域開発と村落景観の 多摩川中流域を中心に 歴史的展開

原田 信男 編

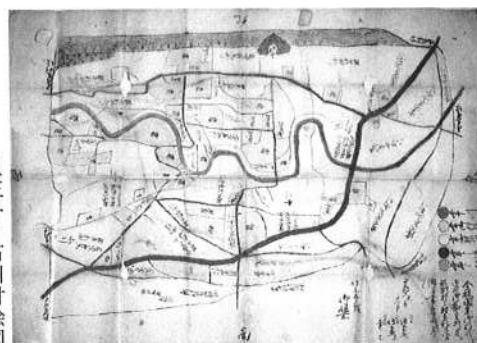
▶ A5判・470頁／定価 9,450円 (税5%込) ISBN978-4-7842-1555-3

2011年3月刊 好評発売中

関東平野西部の多摩川中流域をフィールドに、開発と景観という観点から、地球環境の変遷を問い人間の営みの歴史をたどる。豊富な考古遺跡・遺物にくわえ、村絵図・地方文書などの文献史料を手がかりとし、旧石器時代から前近代にわたって通史的に論じる。編者を中心に、20年におよぶ年月をかけ行われた共同研究の成果。

内容目次

序章	日野・八王子地域とその周辺の地形	久保 純子 (早稲田大学教授)
第1部		
総論	先史～古代の通史的展望	原田 信男 (国士舘大学教授)
第1章	先史時代における日野・八王子地区の開発と景観	上敷領 久 (国分寺市教育委員会ふるさと文化財課)
第2章	古代における集落と谷戸の開発 —八王子石川天野遺跡の事例から—	有村 由美 (調布市遺跡調査会主任調査員)
第3章	古代における沖積地の開発と景観 —日野市南広間地遺跡を例として—	有村 由美 梶原 勝 (文化財コム取締役)
第2部		
総論	中世～近世の通史的展望	原田 信男
第4章	中世～近世における丘陵部の開発と景観 —八王子市宇津木台遺跡群を中心に—	梶原 勝
第5章	中世～近世における沖積地の開発と景観 —船木田荘と多西郡三郷—	原田 信男
第6章	近世中・後期における低地部の開発と景観	清水 裕介 (中央大学大学院博士後期課程在学)
第7章	近世中・後期における台地部新田開発の様相	井上 潤 (渋沢史料館館長)
第3部		
総論	近世における開発と景観の諸相	原田 信男
第8章	近世における丘陵部の開発と村落景観 —石川村の天正検地とその後— 酒井 麻子 (藤沢市文書館史料専門員)	
第9章	近世における丘陵部の 村落景観と親族・生活相互扶助組織 谷澤 美香 (あきる野市教育委員会公民館)	
第10章	近世の日野・八王子地域における耕地開発と宗教施設 飯泉 今日子 (府中市文化振興課)	
第11章	近世の日野・八王子地域における焼畑の位置 山本 智代 (錦城学園高等学校教諭)	



八王子・石川村絵図

はらだのぶを…1949年栃木県生。1974年明治大学文学部卒業、1983年明治大学大学院文学研究科単位取得満期退学。札幌大学女子短期大学部教授、ウィーン大学日本学研究所客員教授、国際日本文化研究センター客員教授を経て現在、国士舘大学21世紀アジア学部教授
【主要著作】『江戸の料理史』(中公新書、1989年)。『歴史のなかの米と肉』(平凡社選書、1993年)。『木の実とハンバーガー』(NHK出版、1994年)。『小シーボルト蝦夷見聞記』(共著、平凡社東洋文庫、1995年)。『中世村落の景観と生活』(思文閣史学叢書、1999年)。『いくつもの日本 全7巻』(共編著、岩波書店、2002～03年)。『食と大地』(ドメス出版、2003年)。『江戸の食生活』(岩波書店、2004年)等。

思文閣出版

〒606-8203 京都市左京区田中関田町2-7 tel. 075-751-1781 fax. 075-752-0723
<http://www.shibunkaku.co.jp> E-mail: pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行：思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	地域開発と村落景観の歴史的展開		本体9,000円(税別)	ISBN978-4-7842-1555-3
お名前			tel		
			e-mail		
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代引 (書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い下さい)				書店番線印

中世村落の景観と生活 関東平野東部を中心として
 原田信男著 思文閣史学叢書
 はじめに地域ありき——関東平野東部を中心に現地調査にもとづき、地形や伝承、中世・近世文書や地誌類などの豊富な資料、さらに地理学・考古学などの隣接諸科学も援用して、いくつかの典型的な中世村落の事例復元を試みる。生活の諸相をふくめて総合的かつ具体的に考察し、近世への展開をも見通した大著。
 ▶A5判・640頁/定価11,340円 ISBN4-7842-1022-9

中世村落の景観と環境 山門領近江国木津荘
 水野章二編
 近江の湖西、高島郡の木津荘(現・新旭町)は、山門の寺務機構が管理・運営する天台座主直轄の重要荘園である。本書は木津荘に残る検注帳・引田帳ほか文献の詳細な検討、地表に残されている用水路や水田の形状、地名・伝承など「生きた文化財」の調査から、山門領荘園の実態と中世村落の景観に迫る。
 ▶A5判・392頁/定価7,140円 ISBN4-7842-1198-5

中世都市「府中」の展開
 小川信著 思文閣史学叢書
 中世以来、古代国府の後身ともいえるべき国々の中心となる領域は、しばしば府中と呼ばれる。中世府中は、古代国府と戦国期以降の城下町の中間に位置しながら意外と見逃されていた一種のmissing link(見失われた環)であったが、本書では詳細な個別研究を集大成、中世都市としての諸国府中の全体像を明らかにする。
 ▶A5判・576頁/定価11,550円 ISBN4-7842-1058-X

熊本藩の地域社会と行政 近代社会形成の起点
 吉村豊雄・三澤純・稲葉継陽編
 永青文庫細川家文書に大量に残された地方行政記録綴「覚帳」や、村役人層をはじめとする住民の評価・褒賞記録綴「町在」の系統的分析を行うことで、19世紀段階の近世行政システムの全容を解明。さらにそれらが近代社会の成立や地域の近代化にとって、どのような前提条件を提供することになったのかを明らかにする。
 ▶A5判・420頁/定価9,450円 ISBN978-4-7842-1458-7

中世・近世の村と地域社会
 西村幸信著
 大和を中心とした中世・近世の村落構造に関する諸論考を集成。第一には、村落中間層のあり方に注目し、学界で支配的な「自力の村」論に真っ向から異論を唱えたものなど主要論文を収め、第二部では、松波勤十郎と郡山藩領についての新発見など『広陵町史』近世篇に結実した業績を収める。2006年6月若くして逝去した著者の遺稿集。
 ▶A5判・404頁/定価6,510円 ISBN978-4-7842-1353-5

近世鉱山社会史の研究
 荻慎一郎著
 鉱山社会史研究の視点から、支配・経営構造、技術受容と生産体制、労働組織、鉱山法や住民の社会生活などの実態を大葛金山・院内银山などの一次史料を通して解明。【内容】天保年間における院内银山経営/南部鉄山における生産組織と労働組織/近世鉱山法の研究/近世における鉱山労働者の「入寺」慣行/鉱山町の社会生活ほか
 ▶A5判・640頁/定価13,440円 ISBN4-7842-0900-X

近世吉野林業史
 谷彌兵衛著
 史料に基づき実証的に明かした本書は、吉野林業を初めて通史的にとりあげた研究。【内容】近世吉野林業史研究の視点/借地林業概念とそのイデオロギー的役割/吉野地方における育成林業の開始/小農型林業の生成/小農型林業の発展/小農型林業の変質/土倉家山林関係文書の実証的研究/小農型林業と材木商人/小農型林業と材木組合
 ▶A5判・538頁/定価9,765円 ISBN978-4-7842-1384-9

大地へのまなざし 歴史地理学の散歩道
 金田章裕著
 古代日本の条里制から世界地図まで、グローバルな研究を展開してきた著者が折に触れて書き継いできた諸論稿をまとめる。【内容】道行く人びと/景観史への道程/町と村の発達/英国の世界認識と世界覇権/世界の大地への関心/北海道植民地区画の特性と系譜/古代都市の情景/南海道/琵琶湖岸の変遷と土地利用/禍福おりにす大地 他
 ▶A5判・322頁/定価4,725円 ISBN978-4-7842-1405-1

近世の環境と開発
 根岸茂夫・大友一雄・佐藤孝之・末岡照啓編
 江戸時代の現実に沿って、村落・河川・山野・鉱山を題材に、環境と開発の問題についてあらためて問い直す論文集。【内容】近世環境史研究と景観・開発/明和四年の関東筋川々普請組合の成立/上州山中領における土地利用とその環境/江戸時代後期の山林資源と村社会/近世、別子・立川銅山の開発と銅水問題 他
 ▶A5判・366頁/定価7,875円 ISBN978-4-7842-1544-7

中世荘園の世界 東寺領丹波国大山荘
 大山喬平編
 大山荘の調査結果をふまえたシンポジウムをもとに編んだ中世荘園の全貌に迫る一書【内容】古代末・中世の開発/荘園と条里制/平安期の開発と領域支配/記録しておく人はいるか/鎌倉期の村落の民衆生活/室町期一井谷の景観/室町期における西田井の再開発と経営/西向遺跡と大山荘/大山城の遺構/大山地域における民俗地図ほか
 ▶B5判・340頁/定価10,080円 ISBN4-7842-0893-3

畿内の豪農経営と地域社会
 渡辺尚志編
 18世紀末以降、河内国丹南郡岡村(現藤井寺市)の庄屋を世襲し、豪農・地方名望家である岡田家。近世・近代において同家が作成・授受した「岡田家文書」は、1万数千点にもおよび、近年整理が進められている。岡田家文書を多角的に分析し、畿内における村落と豪農の特質を経済・社会構造の観点から解明する。
 ▶A5判・508頁/定価8,190円 ISBN978-4-7842-1385-6

近世社会と百姓成立 構造論的研究
 渡邊忠司著 佛敎大学研究叢書1
 近世社会において零細な高持百姓はいかに自らの生活や農耕の日常を凌いだか、経営の自立と再生産を可能としていた「条件」は何であったのか。近世社会における「百姓成立」について、領主権力による「成立」の構造を再検証し、百姓の観点から百姓自らが創出した「成立」の条件と構造を年貢負担と村内の組編成、質入の検討により解明。
 ▶A5判・310頁/定価6,825円 ISBN978-4-7842-1340-5

環琵琶湖地域論
 西川幸治・村井康彦編
 滋賀県立大学の研究スタッフが、琵琶湖をとりまく自然・経済・民俗・遺跡などをとりあげた成果。【内容】中世商業村落の生活と環境の整備/人と自然の関係要素素描/江戸時代における琵琶湖の鳥獣について/琵琶湖湖底遺跡の研究/内湖のあった生活/溜池のある風景/近江のムラの文化を考える/マツリゴトの機能とその現在ほか
 ▶A5判・340頁/定価7,350円 ISBN4-7842-1175-6

近世後期瀬戸内塩業史の研究
 山下恭著
 塩、醤油業における開発・経営・塩専売制・流通問題を分析し、さらに塩業における燃料問題と労働条件を数量的に解明した基礎的研究。【内容】近世後期の塩業と醤油業(近世後期龍野醤油醸造業者の塩田経営/龍野藩網干新在家浜と醤油造元ほか)近世後期の塩業の燃料問題と塩業労働(近世後期赤穂塩業の燃料革命ほか)
 ▶A5判・300頁/定価6,300円 ISBN4-7842-1287-6

※日本近世地誌編纂史研究
 白井哲哉著 思文閣史学叢書
 領主支配における文化行為の意義に着目。地誌編纂の一つの政治的文化的行為と位置づけ、その機能や実態について明かし、また日本の地方史・地域史研究に対する歴史的考察の観点から、様々な地誌の具体的な編纂活動をとりあげる。記述内容よりも、記述形式や編纂活動、編纂体制などの分析を通じ、編纂という文化的行為から地誌を解明。
 ▶A5判・386頁/定価9,660円 ISBN4-7842-1180-2

日本古代都市史研究 古代王権の展開と変容
 堀内明博著
 平安京などの都市遺跡発掘調査に携わった著者の研究成果。長岡京の東宮と左京東院、平安京の条坊と市・町の形態、宅地と建物配置などの王朝都市から、白河・鳥羽殿などの中世前期都市まで、都城の展開と変容経過を時系列に分析し、古代王権のあり方を考古学の成果を踏まえて解明した一書。掲載図版多数。
 ▶B5判・514頁/定価15,750円 ISBN978-4-7842-1457-0

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。